



観光地点検

奈良県立大学地域創造学部講師
岡本 健

地域を「壊す」キャラクター 創造的破壊思考のすすめ

愛らしいフォルムや表情で地域のことを広くアピールする「ゆるキャラ」が大人気だ。「ひこにゃん」「くまモン」「ふなっしー」など個性的なキャラを持ち味に、子供から大人まで受け入れられ、地域のPRに一役かっている。

町を壊す怪獣映画にヒント

その一方、地域の侵略を企てるキャラクターがいる。北海道函館市の「イカール星人」である。「イカール星人」は様々な兵器を用いて、函館のまちを攻撃してくる宇宙人という設定だ。これを聞くと「それは地域をアピールすることになるのか?」「地域をおとしめる行為なのでは?」と言う解釈もできる。しかし、実はここに「観光」や「広報」を考える際に重要なヒントが隠れているのだ。

観光地を舞台にした映画シリーズは『男はつらいよ』をはじめとして数多くある。映画の中でその地域を破壊する描写があるものといえば『ゴジラ』や『ガメラ』といった怪獣映画だ。怪獣が大暴れして、町がどんどん壊されていく。特に目立った

建物が壊されることも多く、東京タワーや国会議事堂、名古屋城や大阪城、福岡ドームなど枚挙にいとまがない。シリーズが進むにつれ、観光地や有名スポットを破壊するシーンは定番となり、「次はどこを壊すのか」という楽しみ方も出てきたくらいである。

町が破壊される描写は、地震や津波、台風といった自然災害を想起させる部分もあり、そういった被害にあわれた方からすると見ていられないものかもしれない。また、いくら架空の映画の世界のお話とはいえ、自分たちが住んでいる地域や、誇りに思っている建物を壊されるのは見たくないという方もいらっしゃるかもしれない。しかし、それでも、大怪獣が現れて大暴れする映画を見て「すっきり」する人がいるのも確かだ。最近だと、『ゴジラ』や『機動戦士ガンダム』などの日本の特撮映画やアニメに大きな影響を受けたメキシコ人監督、ギレルモ・デル・トロ氏によって『パシフィック・リム』という映画が撮影され日本でも上映された。往年の怪獣映画ファンも納得の出来で人気を博した。日本の怪獣映画の価値観が海外の監督によ

って映画化され、それが日本で評価された形だ。日本の特撮映画のファンは海外にもいる。

宇宙人襲来を観光ビデオ化

怪獣映画、特撮映画文化をうまくパロディ化して観光ビデオに仕上げたのが『ハコダテ観光ガイド イカール星人襲来中①「新鮮!イカール星人現る!」』だ。動画投稿サイトYouTubeに2008年11月26日にアップロードされた3分程度のこの動画は現在50万を超えるダウンロード数を誇っている。

「宇宙人100人に聞きました!」「今、最も侵略してみたい地球の都市はどこ???」「堂々の第1位」「函館 HAKODATE」というテロップから始まるこの動画では、イカール星人が函館に巨大なイカ型ロボット「イカボ」を送り込み、まちを破壊していく。市役所などは木端微塵である。イカール星人の宇宙船は宇宙から五稜郭にビーム光線を放ち、五稜郭は大炎上。私は函館市民ではないが「こんなムービーを流して大丈夫だろうか…」と心配になってしまうくらいだ。しかし、その狼藉を食い止めるべく、函館五稜郭タワーが変形し巨大ロボット「タワー

ロボ] となって、イカボと戦う。巨大中空土偶も函館の危機に立ち上がり、炎につつまれたはずの五稜郭は、なんと空中要塞ゴリョウカクとなって宇宙に飛び立つ…。ラストは「観光はお早めに…」のテロップ。ちなみに新作では、破壊された市役所は「SGS (スゴイ市役所)」となって復活を果たし、函館防衛の新たな戦力となっている。

この動画は猫乃手堂による製作で、その後、様々なバリエーションの動画がアップされた。人気を博し、2012年8月にはBSフジでテレビ放送版がオンエアされ、DVD、ブルーレイディスクも発売。販売元は(株)シンプルウェイだ。さらに、イカール星人は地元水産加工業者のCMにも出演している。

動画だけでなく、イカール星人のリアルな着ぐるみが作られ、イベントなどで活躍している。たとえば、函館市電とコラボし、市電の特別乗車チケットを発売している。そのチケットには付録として「滑らない砂」がつけられている。函館市電が雪で滑らないように散布している砂をイカール星人が描かれた袋に入れたものだ。この時のイカール星人は試験に受かるようにと「うかーる星人」に変身した。受験生や受験生を持つ親などに人気だ。他にも様々なグッズが販売されている。侵略者イカール星人が地域に愛されるキャラクターになっている。



函館市電に乗る「うかーる星人」



函館のまちなみ

お行儀よさを壊す発想

「イカール星人」が面白いのは、地域の建物や事物を、印象に残る形で映像化している点だ。「地域の魅力をアピール」と言うのと、どうしてもお行儀がよくなってしまいう傾向にある。だが、観光客の中にはそのように着飾った「地域の魅力」よりも、その地域の要素を誇張したものや、その地域の人々の本音が垣間見えるものに魅力を感じる人も多い。たとえば、テレビ番組の「秘密のケンミンSHOW」はその枠組みをうまく使っている。ある県で見られる文化を取り上げて、他県の人々はそれを「信じられない」と驚いたり、「おかしいよ」などとツッコミを入れたりする。悪口を言っているように聞こえることもあるが、これによって、その県の文化的特徴が際立つ。

忘れがちなのだが、観光とは「差異」を作り出して、その差異を商品とする産業である。それゆえ、他地域で行われた実践の真似をするという判断だけではうまくいかないことが多い。創造的な取り組みが必要なのだ。

それでは、創造的取り組みとはどういうものを指すのだろうか。創造性の高いものとは、常識から適切な距離で逸脱したものを指す。あまりに逸脱が激しいとわけがわからない。逆に逸脱が軽微すぎると「つまらない」ものになる。「イカール星人」は、地域がお行儀よく自らをアピールする常識的な枠組みを「破壊」して見せ、そこから函館を愛する新たな形を「創造」した。価値観は多様化しており、ある個人には理解不能な事象が別の個人にとってはたまらなく魅力的であることはよくある。観光振興には創造的破壊思考も必要だ。

今後のポイント

イカール星人は動画から始まり、グッズ、イベント展開で知名度を上げているが、観光客を呼び込む取り組みは今後さらに伸び代がある。冒頭に述べたように怪獣映画文化のファンも多い。今後「イカール星人」という魅力的なコンテンツを元に、観光客が実際の函館を愛するような仕掛けがなされるのが楽しみである。

